

The 20th Memorial Meeting of the Japanese Academy of Home Care Physicians

日本在宅医学会

第20回 記念大会

いのちと生活を支える
医療介護多職種チームの使命

病院・行政・市民と
ともに取り組むまちづくり

2018.4.29・30 (日) (月・祝)



一つの大陸から
2億年を経て

現在の大陸が
形成された



next stage?

時とともにニーズは変遷し
医学や技術も日々進歩する
職種や機関の役割も変化する
羅針盤をもとに“進むべき道”を考える

大会長の願い

みなさんはパンゲア大陸のことをご存じでしょうか。2億年前、陸地は大きな一つの大陸で形成されていました。プレートは常に動いており、長い時間を経て、現在では6つの大陸から形成されています。医療や専門職のあり方も、未分化な状況から始まり、徐々に専門性や新たな技術が確立されてきた歴史があります。地域包括ケアが叫ばれる時代となり、今後もニーズの変遷とともに新たな役割やアプローチが必要になるでしょう。10年後までになすべきことに思いを馳せる大会を目指し、第20回記念大会のモチーフにパンゲア大陸と羅針盤を選びました。

生活を支える視点が、地域における在宅医療や介護の現場はもろんのこと、急性期医療や行政施策にも不可欠だと言われるようになりました。そこで、この大会には病院で診療に当たっている医師

や看護師、地方自治体等で活躍している行政職、そして市民の方々にもご参加いただけるように、病院や行政、地域に関連するプログラムを数多く設けることにしました。以上を踏まえ、大会テーマを「いのちと生活を支える医療介護多職種チームの使命 ～病院・行政・市民とともに取り組むまちづくり～」と設定しました。

会場には、規模の小さな当学会には分不相応な費用を要することを承知の上で、品川に立地するホテルを選びました。例年の1.5倍の数にのぼる企画を、文字通り一つ屋根の下で開催できる大きな会議場が決め手でした。参加者は、高校生時代に戻ったかのように、朝から夕方まで12の会場を渡り歩きながら、発表に耳を傾け、思索や議論を深めることを期待します。結果として、有名人はお招きできませんし、豪華なおもてなしもない質実な大会になります。多くの参加者が来場され、窮屈かもしれません。それでも、「大いに収穫があった」「目から鱗が落ちた」と言って頂ける大会を目指します。医療や介護の現場でともに汗を流している仲間、地域をともに支える病院や行政の方々をお誘いの上、手分けして羅針盤や海図に相当する大会プログラムにご参加ください。次の10年に進むべき進路を見出すことができると思います。みなさまのご参加をお待ちしております。



日本在宅医学会第20回記念大会
大会長 川越 正平
あおぞら診療所 院長

公募シンポジウムの演題を募集します！

日本在宅医学会 第20回 記念大会

全60程度のシンポジウムのうち7つについて演題を公募し、知名度にかかわらず、優れた取り組みを全国から幅広く取り上げたいと考えています。意欲的な演題を奮ってご応募ください。その中から、選りすぐりの演者にご登壇頂きます。

わがまちの在宅医療・介護連携推進事業

在宅医療・介護連携推進事業は、必須の事業としてすべての市町村で実施されます。地域で創意工夫が重ねられている先進的な活動を取り上げます。委託を受けている地区医師会や実施主体である市町村からの応募を期待します。

認知症になっても安心して暮らすことができる地域を目指して

認知症初期集中支援チームや認知症サポーター、認知症ケアパス、介護者支援、地域の見守り体制など、各地域で進められている認知症に関する先進的な活動を取り上げます。

かかりつけ薬剤師は地域でどんな役割を果たせるのか

「患者のための薬局ビジョン」が打ち出されて以来、検討、実践されているであろうかかりつけ薬局としての機能や地域のヘルスプロモーションを担う機能について、全国の薬剤師の優れた活動に関する演題を募集します。

看取りを支える人材の養成

在宅において療養者を看取りに至るまで支援するためには、医療介護にかかる人材の養成が喫緊の課題です。介護職を含むさまざまな医療介護に関わる職種の人材を養成するための取り組みについて、ご応募ください。

居住系施設における看取り

全国には、優れたケアを提供している施設は数多くあることでしょう。中でも、看取りに熱心に取り組んでいる施設の実践についての演題を募集します。地域の居住系施設にお声がけいただくか、連携医療機関としてご紹介ください。

在宅医療の現場において医療ソーシャルワーカーが果たす役割

MSWを配置する在宅医療機関が徐々に増え、病診連携や多職種協働、医療介護連携におけるコーディネート機能や、患者家族との連絡調整などの役割を果たしています。在宅におけるMSWの活躍についての発表を聴き、ともに考える機会とします。

地域を豊かにする居場所づくり ～こども食堂や保健室～

まちの保健室やこども食堂が全国あちこちで立ち上がっています。サロンやカフェなどを含め、どのような形であれ、地域を豊かにする居場所づくりが現代社会に求められています。みなさまの地域の居場所づくり活動を是非ご紹介ください。

公募シンポジウム募集期間

2017年10月18日(水) 正午 ▶▶ 10月31日(火) 正午

一般演題募集期間

2017年10月18日(水) 正午 ▶▶ 11月15日(水) 正午

一般演題を募集します！ 要望テーマはこちら↓

- 在宅医療の質を評価する指標
- 心不全患者の在宅医療
- 在宅医療と地方行政が連動する活動
- 地区医師会が取り組む在宅医療の活動
- 摂食嚥下障害患者の食支援
- 在宅医療と病院が連動する活動
- 在宅医療と市民が連動する活動

在宅医療分野の進歩には、実践や研究に関する積み重ねが必要不可欠です。もちろん要望テーマに限りません。たくさんの演題を奮ってご応募ください！

オンラインでの登録となります。詳細はホームページ (<http://www.20zaitaku.com>) をご確認ください。

20 在宅

検索

領域横断セミナー

在宅医療は、狭義の医学というアプローチだけで完結することはできません。関連する様々な領域の新たな知見や異なる視点についてレクチャーを受けることによって、実践的なアプローチ方法を学ぶことができます。演者には、原則として在宅医以外から選ばせていただいた関連領域の第一人者にご登壇いただきます。この領域横断セミナーがシンポジウムの基調講演に相当し、直後のシンポジウム等に大きな示唆をもたらして頂けるものと期待します。

ていだん 鼎談 次の10年を展望する

20回記念大会であることを鑑みて、2日目の午後に次の10年を展望する、夢を語る企画を行いたいと考えました。そこで、通常のシンポジウムではなく、さまざまな領域ごとにご高名な方を3名お招きします。それぞれの短いプレゼンテーションののち、設定されたテーマについて次の10年を展望し、夢のある話を鼎談の形で膨らませていただきます。まちづくり、新たな看護、総合診療医、これからの病院、いのち、食支援などのテーマを予定しています。

じっくり検討会

今回、テーブルを配置する会場を一つ用意します。事例やテーマに関する話題提供をもとに、参加者が少人数で深く討論できるスタイルです。事例としては、食支援、デスカンファレンス、認知症、神経難病など臨床上の重要領域を、討論のテーマとしては、診診連携、かかりつけ医の在宅医療を支援する機能、同時改定を予定しています。じっくりと議論することで、参加者の「腑」にまで落ちる企画を目指します。小さな会場なので先着順となることをお許しください。

Special Program

介護保険の歴史から学ぶ

～制度創設前夜から現在までの制度改正を俯瞰して今後進むべき道を展望する～

家族に委ねられていた介護を社会的に支えていこうというコンセプトでスタートした介護保険制度も19年目に入りました。この介護保険制度、もともと創設時には何が議論され、何が期待され、何を追究しようとしていたのでしょうか？ 制度創設前から学識経験者として関わっておられた慶應義塾大学田中滋先生に介護保険の歴史の概要についてレクチャーいただき、その後、制度設計者の立場から神田裕二さん、基礎自治体行政官の立場から笹井肇さん、研究者の立場から筒井孝子さんに、当時を振り返っていただきます。創設20年の節目に向けて、歴史を未来に橋渡ししていただくと同時に、今後、我々は何を追究しながら介護保険制度と向き合っていけばいいのかを議論します。

臨床

高齢の誤嚥性肺炎患者を地域で支える

～予防と治療、そしてその後の生活を見据えた連携とは？～

増え続ける高齢者の誤嚥性肺炎にフォーカスし、予防・治療に関する最新の研究知見や臨床実践について聴講していただきます。その後、在宅療養患者の緊急入院理由の多くを占めるこの誤嚥性肺炎に対し、在宅医療者や介護施設従事者にどのような取り組みが求められるのか、また後方支援機能として地域の病院が果たすべき役割は何かについて、実際の地域の現場から登壇者を招いて考えを深めます。肺炎治療後の生活、また看取りを見据え、その方にとっての地域全体のベストプラクティスを議論しましょう。

地域

困難事例にどう取り組むか

～多領域の力を結集して浮かび上がる地域課題の解決を目指す～

社会とのつながり、住宅問題、法的問題、人権・尊厳問題、低所得、健康問題などが複雑に結びつき、困難事例とされるケースが地域には少なからず存在します。こうした領域横断的な課題を抱える方々に対応する適切な支援機関・支援プロセスが未だ確立されていないのも実情です。セルフネグレクト対応、地域共生を目指す我が事・丸ごと事業、成年後見制度、医師によるアウトリーチなど、こうした複合的課題を抱える方々の支援に先進的に取り組まれている学識者、専門職、制度設計者、また多くのゴミ屋敷に対応されていた清掃業者の方に、その実際や課題についてご紹介いただき、さらに他地域での応用に向けての議論を深めます。

行政

地域の要！保健師活動

～時代が求める保健師機能発揮のために～

保健師は、地域の特性を活かしソーシャルキャピタルの醸成及び活用等により、住民の主体的かつ継続的な健康課題への取り組みを促すことにより、健康なまちづくりを推進するという機能を持っています。まさに時代が求める機能です。この機能をフルに活かし、地域に根ざした先駆的な取り組みをしている行政保健師の方々から、具体的な活動内容や体制（保健師がつなぐ認知症対策、保健師の分散配置を撤廃し地区担当制を復活させた保健師活動の実際等）をご紹介いただき、健康的なまちづくりのための医療・介護機関、そして住民とのコラボレーションのあり方について議論します。

病院 - 在宅連携

望まない延命医療をしないためのまちづくり

～救急医療と在宅医療の有機的な連携のためにできること～

心肺停止状態で救急搬送され、本人の意思表示がないまま蘇生・延命措置を受ける高齢者が増えています。高齢者の救急搬送については、搬送時のみならず、退院後の療養場所の決定など、多くの課題が未解決のままです。これらの課題を解決するために、救急医療と在宅医療が有機的に連携し、本人の意向に沿った終末期のありかたを模索する取り組みが全国的に広がっています。本セッションでは、八王子（八王子市高齢者救急医療体制広域連絡会の活動）、松戸（ケアマネジャーによる意思決定支援と緊急時連絡シートの地域運用）、神戸（救急搬送に関する市民啓発、ツールの開発）など、先駆的な取り組みをされている地域の事業概要を紹介いただいた上で、課題やその解決策、さらには他地域への汎用性などについて議論します。

じっくり検討会

診診連携のすすめ

～うちの地域の診診連携はどのスタイルが最も適しているのだろうか？～

実際に診診連携システムを構築されている方々に、その実際のプロセスや課題等をご講義いただいた後、会場の皆さまには複数のグループに分かれ、自らの地域の診診連携について、じっくり検討していただきます。先行研究から、診診連携のスタイルを考える際に検討すべき項目として、1) 設立の経緯と構成メンバーの規模、2) 副主治医の決定方法と患者情報共有、3) 副主治医の待機・出勤と看護師との連携、4) カルテ作成と副主治医への報酬支払いが挙げられていますが、こうした切り口から、ファシリテーターやグループメンバーと共に大いにディスカッションください！明日からの診診連携推進に必ずや活かしていただけると期待します。

看護

看護小規模多機能のすすめ

～看多機を地域包括ケアのキモにするために～

複合型サービス創設（平成27年に看護小規模多機能型居宅介護（以下、看多機）に名称変更）から 5年。通い、泊り、訪問介護・看護のサービスを提供可能なこのサービスには多くの利点があり、実際に看多機でのケアの効果が可視化される情報も増えてきました。しかし、その数は全国で320（平成29年5月現在）、未だ多くの市区町村でゼロという現状であり、充足しているとは言えません。その原因がどこにあるのか、看多機に造詣の深い方々から、看多機が地域で果たせる役割とその現状、看多機の拡充の足かせとなっている問題点、実際の立ち上げや経営のポイントを提示していただき、今後の看多機の展開の足掛かりとなることを期待します。

住民参画

住民が地域の医療・介護を守るということ

～住民の立場で考え、主体的に活動する極意～

地域の医療や介護の課題を解決するには、そのあり方を住民の立場で考え、主体的に活動することが重要であるという認識のもと、各地でさまざまな住民活動が展開されています。このような”地域医療や介護を支える活動”の実際について2つの団体からご発表いただくと同時に、このような住民活動を大学の立場から、また医師会の立場から支える方々にご登壇いただき、”支えるを支える活動”についてお話いただきます。さらに、住民力を高め、また行政及び医療機関とも協働しながら、地域医療・介護を守り、育てていく方策や体制について議論します。

副大会長の想い

在宅医療は、今、Third Stage にいると解釈しています。佐藤智先生をはじめとするパイオニアたちが患者・家族の QOL を最大限考慮した形の医療を模索し”在宅医療”をスタートされた First Stage、そして診療報酬や介護保険などの制度と共に歩み始め全国に在宅医療が伸張した Second Stage を経て、地域包括ケアシステムの中で在宅医療がどう機能するかを連携という学際的なバランスの中で追求する Third Stage に我々はいます。

振り返れば、在宅医療は静かに、しかし着実に医療の在り方を変えてきました。人々の療養生活を支えるという大きな目標に向けて、継続的に少しずつその形を変化させながら。その結果、我が国の医療的課題における革新的なソリューションとしての存在意義も高まってきています。

一方で、かかりつけ医の役割の明確化と質の向上、領域横断的な課題を抱える方々への対応、予防事業との連動など、在宅医療の守備範囲は訪問診療のみならず、住民の健康をマネジメントし、医療保健福祉のみならず、さまざまな領域の方々と共に生活を支えることに核をシフトする時期に来ているのかもしれない。

過日、スティーブンジョブスの後継者、アップル社 CEO のティムクックが、同社の長期的戦略として「今後我々は、人々の暮らしのすべてに関与する」と述べていました。これは車や家電などすべての製品をアップル社が手がけるという意ではありません。現状、断片的に使用されている身の回りのマイクロプロセッサを備えた PC や家電や車などをプラットフォームに繋げることで、様々な機能を集約的に効率的に利用できるスマートな環境となる。このようなプラットフォーム体験を人々の暮らしに広げていくという話でした。これは、言い得て妙、現在の在宅医療、そしてまちづくりに重複するものがあるのではないのでしょうか？

この第 20 回記念大会が、日本在宅医学会リニューアル前の集大成としての大会であると同時に、新たなスタートに向け、在宅医療の Third Stage のブレイクスルーになればと心から願います。皆さまのご参加をお待ちしております！



日本在宅医学会第20回記念大会

副会長 山岸 暁美

慶応義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室
あおぞら診療所

参加費
無料

在宅医療が病院改革の鍵 病院勤務医をお誘いください！

本学会医師が連携している病院医師(本学会会員および合併予定の日本在宅医療学会会員以外)を1名に限り、参加費無料で本大会にご招待いたします。

会員医師が、

- ①事前参加登録時に、推薦する勤務医の氏名、所属病院、メールアドレスを登録
- ②勤務医に招待のメールが届きます
- ③勤務医がそのメールをプリントアウトし、当日学会事務局受付に提示すると、参加証をお渡しいたします

注:抄録集や全員懇親会のチケットは別途購入が必要です

事前参加登録期間 (予定)

<http://www.20zaitaku.com>

2018年1月9日(火)

▶▶ 3月28日(火)

ホームページからの
オンライン登録のみとなります。



- ・新幹線・JR線・京急線の品川駅(高輪口)から徒歩約5分(ザ・プリンス さくらタワー東京は徒歩約3分)。
- ・都営地下鉄浅草線高輪台駅から徒歩約3分(ザ・プリンス さくらタワー東京は徒歩約5分)。
- ・京急線 羽田空港駅から品川駅へ最速11分。

- 会場 **グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール** (東京・品川)
- 大会長 **川越 正平** あおぞら診療所 院長
- 副大会長 **山岸 暁美** 慶應義塾大学 / あおぞら診療所

主催 医療法人財団千葉健愛会 あおぞら診療所
事務局 〒271-0074 千葉県松戸市緑ヶ丘2-357
Tel:047-369-1248 Fax:047-369-1247

運営 株式会社ウィアライブ コンベンション事業部内
事務局 〒104-0041 東京都中央区新富1-12-4 シーラカンスビル8階
E-mail: zaitaku2018@ouialive.co.jp Tel:03-3552-4170 Fax:03-3552-4178